

広域的な市街地等汚濁負荷削減手法等に関する調査

全体期間	1993.10～1999.3	本文111P～116P
------	----------------	-------------

(目 的)

下水道の整備とともに家庭や事業所から流出する汚濁負荷量は減少しているが、一方で路面や屋根等からの非特定汚染源（ノンポイントソース）からの堆積物の流出に起因する汚濁負荷量は、都市化の進行に伴って増加する傾向にある。しかし、ノンポイント汚濁負荷に関してこれまで十分な調査研究が行われているとは言えず、汚濁負荷の性状、流出機構等、まだまだ解明されていない面があり、有効な削減対策が講じられていない状況にある。

そこで、平成5年に「市街地排水浄化対策研究会」が設置され、各県のモデル地区において雨天時汚濁負荷流出調査や解析の検討を行ってきた。平成10年度には、基本的な検討事項や手順を示した「市街地のノンポイント負荷に関する手引き（実態把握と予測手法及び対策）、建設省都市局下水道部監修、平成10年3月、(財)下水道新技術推進機構」を発刊したところである。

さらに、平成10年度からは、対策施設の実証実験、実施施設の機能評価を実施し、「市街地のノンポイント対策計画マニュアル（案）」を平成10・11年の2ヶ年で策定する予定である。

本年報は、平成10年度に実施された各県の実証実験、実施施設の機能評価についてその概要を報告する。

(内 容)

1. 茨城県

牛久地区刈谷のモデル排水区において雨天時ノンポイント負荷の流出特性から効果的と考えられる対策として、対象区域流末に貯留池およびろ過施設による実証実験に関する研究計画を作成した。

2. 千葉県

我孫子市湖北台団地のモデル排水区では、わが国初のノンポイント対策専用の貯留池が平成10年4月1日に供用開始となった。これをうけ、実施施設における対策効果の実態を現地調査を通じて把握するとともに、その結果をもとに施設の効率的な運用方法等について検討を行った。

3. 長野県

貯留施設は、市街地からの初期汚濁を貯留し、ノンポイント対策を行ううえで有効な施設であるが、対象排水区が大きくなると施設が大規模となり、市街地での用地確保や、維持管理が問題となる。そこで、岡谷市のモデル排水区内の歩道等の用地内に設置可能な比較的小規模な貯留池を設置し、同施設での負荷削減効果および対策施設のあり方に関する研究計画を作成した。

4. 滋賀県

滋賀県守山市のモデル排水区の流末に設置した貯留池＋湿地形式及び沈殿池＋湿地形式の実験施設により、雨天時におけるノンポイント負荷削減対策の実証実験を行った。この実験結果をもとに、浄化施設の効果を把握した。

建設省都市局下水道部、茨城県、千葉県、長野県、滋賀県からの受託研究

研究担当者：篠田 康弘、長谷川 昭夫、小林 卓矢、菅木 新一郎

キーワード	ノンポイントソース、貯留池、沈殿池、湿地、ろ過
-------	-------------------------